

経理理念	教育目標 自主・自律 ＜目指す生徒像＞○学ぶ楽しさを知り、意欲的に学ぶ生徒 ○互いに尊重し、高め合う生徒 ○心身ともに健康な生徒 ＜目指す学校像＞○生徒・保護者・教師が、共に夢を語り合える学校	・自分の考えをもとに学習し、授業内容を確実に身に付ける ・意見や個性の違いを認め、互いに高め合うよう行動する ・自他の健康や生命を尊重し、安全に配慮して行動する ・生徒一人一人にとって、楽しく、学びがいのある学校	・自主学習の習慣を身に付け、継続的に取り組む ・集団のきまりやマナーを理解し、正しい判断のもとに行動する ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、進んで運動する ・教職員自らが学び合い協働する学校	・家庭・地域が誇りに思える開かれた学校

中期経営目標		短期経営目標（評価項目）	自己評価				評価	改善策等	学校関係者評価	
			ABCD評定			文書記述				
			生徒	保護者	教職員					
1 確かな学力	（１）分かる・できる授業の充実	①主体的・対話的で深い学びの実現 ・授業スタンダードの活用	B	B	B	・授業の「めあて」を明示し、振り返りと「まとめ」を行うことを通して「分かる授業」の実践に努めている。・ユニバーサルデザインの視点により、今年度はICTの活用や協働的な学びがより実践され、授業はわかりやすいものとなっている。・自分の考えを持ち、考えを深め、表現できるよう課題の提示と学習形態を工夫に加え、思考ツールの活用（ICTの活用）を活発に行った。・2学年の数学においてＴＴの授業を実践し、個に応じた支援を行った。・サポート・ティーチャーを活用して、数学の学習会を継続させることにより、学習習慣の確立が図られた生徒もいる。・出席停止者に対するオンライン授業を実施し「学習の保障」に努めた。	B	・今後も学習で分からないことについて生徒が気軽に質問ができるような環境づくりを行っていく。放課後のサポートティーチャー学習会の活用を促し、生徒の学習内容の充実と学習習慣の確立を図る。 ・ＩＣＴの効果的な活用を意識した授業実践を行っていく。 ・感染症や不登校等による出席停止や欠席等のための個別学習のフォローも継続させる。 ・すべての生徒の可能性を引き出すために、引き続きユニバーサルデザインの視点を大切にした授業改善を推進し、研究4年目のさらなる充実を図る。	B	
		②UDの視点による授業改善 ・ＩＣＴを活用した授業の実践 ・協働的な学びと振り返りの工夫	A							B
		③少人数教育の充実	B							
	（２）小学校との連携と教師の授業力向上	④小中連携授業研究	／	／	B	B	・授業レベルでの小中の連携を充実させ、教員の指導力向上を図る。 ・生徒の実態を踏まえながら、各教科で9年間の「系統性」を意識した授業を展開していく。 ・通常学級の生徒はもちろん、特別支援学級の生徒の情報交換を密にし、生徒理解に努めていく。	B		
		⑤現職教育の充実 ・互見授業、研究授業	／	／	B					
	（３）学びの基盤づくり	⑥家庭学習の習慣化、学習規律の定着 ・「滝根版家庭学習スタンダード」の実践	B	B	B	B	・各学年で継続的な家庭学習支援に取り組んでいる。・生徒の学習意欲を高めるために、望ましい学習環境作りに努力している。・地域の人材を活用した講話を行い、生き方を考えるきっかけづくりや学ぶ意欲の喚起につなげることができた。・市主催の行事にも積極的に参加を促した。校外の同年代の仲間との触れ合いが生徒の自信となり、自己のあり方や「生き方」を考えるきっかけとなった。・読書に関しては図書支援員を活用した教育活動を推進するとともに、ピリオパタルを活用し図書館教育の充実を図っている。・「滝根版家庭学習スタンダード」を実践しながら幼小中を貫いた家庭学習の在り方を学校園一体となって推進している。	・進路実現や職業学習等を含めたキャリア教育のさらなる充実を図る。・今後も各教科だけではなく、学校行事をはじめ、学級活動、及び総合的な学習の時間等を教科横断的に繋ぎ合わせ、生徒たちが自らの生き方を深く考えるようなキャリア教育を推進していく。・社会や地域を担う人材を育成する視点から市主催の行事等外部の行事に積極的に参加を促し、成長の場を設ける。活動や参加の様子を積極的に校内や外部に発信し、活動の楽しさを紹介するとともに参加希望者を増やしていく。	B	
		⑦夢や希望を抱けるキャリア教育の推進 ・「生き方」を考える場の設定 ・体験学習、学習会、説明会の充実	B	B	B					
		⑧読書の習慣の確立と読書のきっかけづくり	A	／	A					
	2 豊かな心	（４）好ましい人間関係づくり・コミュニケーション能力の育成	⑨生活記録ノートの活用、チャンス相談 ・相談しやすい環境整備	／	／	B	A	・生徒への接し方、言葉遣いなど十分に気をつけて指導にあたる。・学校全体で相手のよさを賞賛し互いに尊重し合う態度を育む取り組みを行い、いじめを絶対に許さない風土を醸成し、よりよい人間関係の構築に努める。・定期的な教育相談や生徒への日常的な声かけ、生活記録ノートの点検を継続し、教師と生徒・保護者の信頼関係を高めながら、相談しやすい環境作りに努める。・より良い人間関係づくりに向けて、失敗事例や成功事例を紹介し、生徒が自ら考えて関係づくりができるようにしていく。	A	
			⑩互いのよさを認めあう場と集団づくり			A				
		（５）良識に基づく行動習慣と社会性の育成	⑪「田村の子 心の道標」「田村の生徒実践躬行【A to E】五則」の周知 ・「滝根つりルール」の実践	／	／	B	B	・本校が今まで行ってきた生徒指導の基本的な方針を踏まえながら、各事案に対して引き続き毅然とした態度で対応をするとともに、生徒の現在だけではなく、常に生徒の将来の成長を見据え、保護者の方々との協力関係を基に、丁寧な対応を継続させる。	B	
			⑫情報モラル教育の充実	B	B	A				
（６）道徳性の育成		⑬道徳の授業の充実	A	B	A	A	・年間35回以上の特別の教科 道徳の時間を大切にし、新しい時代の「考え、議論する道徳」の着実な実施を推進している。 ・キャリア教育と関連させ、外部講師を招聘し職業講話を実施した。自己を見つめるきっかけを作る等、学校の職員全体で道徳教育を推進している。 ・道徳の授業においてもICTを積極的に活用し、生徒の議論が活発になるよう工夫している。	A		
		⑭いじめ防止に向けた取り組み	A	B	B					
（７）自主的な活動の支援と奉仕する心の育成		⑮学級活動・生徒会活動・学校行事の活性化	A/A/A	B	B	B	・生徒は部活動や行事に積極的に参加しており、生徒に活躍の場がある。また、活動の場へ積極的に参加させている。・授業や部活動、委員会活動などで生徒が努力したことをほめたり認めたりしている。・「自主・自律」の教育目標を繰り返し全校生徒及び全職員で共通理解し、自主的な活動の支援を後押しするとともに、その行動自体を価値付けしている。 ・今年度は小中合同ボランティア活動を実施し、地域に貢献することができた。また、奉仕の心を養うことができた。	・引き続き教師と生徒の親和的な関係づくりに努め、生徒が心をひらき、物事を多面的・多角的に考え、議論できるような道徳の授業を展開していく。 ・生徒の実態把握に努め、道徳的課題が解決できるよう学校の教育活動全体をとおして道徳教育を推進していく。 ・外部講師を積極的に活用し、様々な人の生き方に触れる機会を設定していく。	B	
		⑯地域に貢献するボランティア活動の推進	B	／	B					
3 健康やかな体		（８）自他の安全に配慮する態度の育成	⑰安全教育の充実 ・防災教育、放射線教育の推進	A	／	A	A	・今後も地域の実態に応じた安全教育、防災教育及び放射線教育を推進するとともに、置かれた状況や科学的根拠を基に自ら判断し行動することができる力が身につくよう、実施時期・内容・取り組み等を工夫していく。	A	
			⑱危険防止への意識の高揚 ・交通教室、防犯教室の実施	A	／	A				
		（９）健康教育・食育の充実	⑲性教育、薬物乱用防止教室の実施	A	／	A	A	・幼小中の連携軸を基に、学校保健委員会を有効に活用しながら中期的及び長期的な健康教育を推進していく。・将来的な成人病の予防を図るために肥満対策が重要であり、保護者への啓蒙を継続的に行っていく。また、個別の相談機会を活用して該当者への具体的な支援を行うとともに、保護者にさらなる理解と協力を仰ぐ。・「自分手帳」を有効に活用し、健康教育・食育の充実を図る。	A	
			⑳食育の充実	A	／	B				
	㉑学校保健委員会の開催 ・滝根地区学校保健委員会（年1回）		／	／	A					
	（10）体力・運動能力の向上	㉒新体力テストの分析と授業の重点化	／	／	A	B	・健康教育・食育の推進と連携するとともに、引き続き「自分手帳」を活用した取組を継続させる。 ・保健体育の授業や部活動、生徒が主体的に企画したレクリエーション大会等を通して運動の楽しさを味わわせ、運動に親しむ態度を育んでいく。	B		
		㉓「自分手帳」の活用	B	／	B					
	（11）人間性の涵養	㉔常設部・特設部活動の奨励	B	B	B	B	・全校生が常設部に所属し、教育目標「自主・自律」を念頭に置いた活動に取り組んでいる。・特設部も合唱、陸上及び駅伝など、自主性を尊重し多様な教育活動を展開している。・指導や支援の方針について合意形成を図るとともに、取り組みによる成長を称賛している。	・大会での入賞の有無や勝敗に関わらず、仲間との協力、継続した取り組みや積み重ねによる成長を称賛することで達成感と自信を持たせ、次の取り組みに生かせるようにする。 ・地域のスポーツ少年団との連携等、子どもたちの活動の場の確保を検討していく。	B	
	※信頼される学校	（12）生徒一人一人の人格の尊重・教職員の人権感覚の高揚	㉕学校事故防止（危機管理意識の向上） ㉖不祥事絶無（服務倫理委員会の充実） ㉗相談体制の充実	／ ／ ／	／ ／ ／	／ ／ ／	A	・全ての教職員が生徒・保護者一人ひとりの声に耳を傾け、生徒の気持ちや置かれた状況に寄り添った指導を行う。・学校の方針や生徒のすばらしい活動の姿、学校行事での活躍の様子などを保護者や地域の方々に知っていただき、学校への理解がより深まるように、引き続き継続して学校便り、学校ホームページの充実を図る。	A	
			・定期的に服務倫理委員会を開催し、外部講師を招聘したり研修内容を実践的なものにしたことにより、危機管理意識の向上と不祥事根絶に取り組んでいる。 ・服務倫理委員会を管理職主体から教職員主体に変え、より自主的なものになるよう工夫している。							

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

【学校関係者評価のための学校評議委員会委員】 学校園長 3 名・学校園保護者代表 3 名・学校運営に資する活動を行う者 1 名・地域住民代表 3 名・学識経験者 1 名

学校運営協議会 自由記述欄
・キャリア教育に関して保護者から厳しい評価になっているが、大変重要な課題である。将来の生き方やキャリアについて適切な選択ができ、それに向かって進路や高校を選択しないことで、行き詰った生徒を見てきた。 ・生徒のアンケートを見ると、昨年度よりおおむね評価が上がっているのは素晴らしく、教職員の先生方の理念が生徒へ浸透している表れだと考える。 ・地域に貢献するボランティアの推進は生徒の奉仕の精神によるので難しい点もあるが、より地域と連携することによって、地域も活性化していくと思うので、より推進していただきたい。 ・とても丁寧に、すみやかに、情報発信されていることがよくわかります。・生徒たちも落ち着いて学校生活を送っていることがわかります。朝の登校時のあいさつ等もよくできていて指導の成果と思います。 ・生徒一人ひとりの学習意欲を高め、定着を図るためにも、今後とも「滝根版家庭学習スタンダード」の活用やＩＣＴの活用等を積極的に推進していただきたいと思います。